

全国大会で輝く錦城生

この経験を後輩につなぐ



題字 井口 文章
再刊 第527号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2026

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面..全国大会出場部活！
錦城での留学プログラム終了！
二面..あきた総文 新聞部門
研修取材で竿灯体験！

7月29日の午後に発生した令和八年度熊本地震で被災された方、またその関係者の方々にお見舞い申し上げます。一刻も早い復旧復興を心より願っております。
(編集部員一同)

夏休み期間、錦城から全国大会に弓道部、将棋部、新聞委員会、写真部、そして映画研究部が出場した。今回はインターハイで決勝に進出した弓道部、あきた総文の予選で2勝を挙げた将棋部、同じくあきた総文で優秀賞を獲得した新聞委員会の様子をお伝えする。

弓道部 インターハイ決勝進出

8月1日(土)から4日(火)にかけて和歌山県田辺市の田辺スポーツパーク体育館で行われた、弓道の全国総合体育大会(通称インターハイ)男子個人に松尾央祐さん(3A)が出場した。
松尾さんは出場した感想として、今回の経験も活かして、今回の経験も活かして、高いレベルで戦えるようになりたいと思ったことを挙げた。「弓道部の約3年間の活動のなかで、かけがえない部員の仲間を得られたことが、大きな成長にもつながりました」と話す松尾さん。後輩には、弓道という武道を部活を通して後悔なく楽しんでほしいという思いを語った。



一回一回に心を込めて(弓道部提供)

将棋部 総文祭 予選2勝飾る

7月31日(金)、8月1日(土)にかけて秋田県由利本荘市の由利本荘総合防災公園ナイスアリーナで開催された、あきた総文祭将棋部門に水谷菜優さん(3B)が出場。結果は予選2勝2敗で惜しくも決勝トーナメントには進出できなかった。
会場は張りつめた雰囲気になり、大会は地方予選を勝ち上がった人たちが集まるので、周りがみんな強い。行



会場で笑顔を見せる(将棋部提供)

新聞委員会 総文祭で優秀賞に輝く

7月28日(火)から30日(木)にかけて秋田県湯上市で開催された、あきた総文祭新聞部門に新聞委員会編集部が出場し、5年ぶりの優秀賞(ベスト12)を受賞した。
総文祭では、全国から集まった新聞部員たちが5、6名ずつに班分けされ、その班ごとに紙面のレイアウトを決める取材し、記事を書いて仕上げる工程を3日間で行った。

紙面を完成させた。また、大会期間中に湯上市市民会館天王館にて参加校の新聞展示が行われ、他校の新聞に付箋でコメントを書ける。たくさん新聞を見て、さまざまな刺激を受けた。
5年ぶりの優秀賞を受賞した新聞委員会委員長の飯田夏乃香さん(2)は「優秀賞を受賞できたのは取材を受けてくださった方々、そして何より先輩方の努力の結果だと思います」と振り返る。今後の新聞製作については、「先輩方から学んだ工夫や、今回の総文で触れた他校の「こだわり」を生かして、錦城生に楽しんでもらえる新聞を製作していきたいです」と意気込んだ。

開製作については、「先輩方から学んだ工夫や、今回の総文で触れた他校の「こだわり」を生かして、錦城生に楽しんでもらえる新聞を製作していきたいです」と意気込んだ。

むらさき草

先日すごく面白い夢を見て、幸せな気分が朝を迎えることが出来た。自分の好きな夢を、見た時に見る方法はないだろうか▼調べてみると、マサチューセッツ工科大学が見る夢のテーマをコントロールする方法を発見したという(参考:マサチューセッツ工科大学研究所HP「Targeted Dream Incubation」)▼実験は被験者が眠った後に一度目覚めさせ、再度眠るタイミングで特定のテーマの単語を聞かせて夢の内容をコントロールしようというもの。記事によると入眠時に聞いた言葉は確実に夢に関わっていたそう▼この実験の目的は、夢の内容が創造性の向上にどのように影響を与えるのか調べる、というものである。発明家のエジソンは眠る時、鉄球を持っていた。そうすることで深い眠りに落ちる前に目覚めるようにしていた。そうすることで、アイデアが思い浮かぶようになっていた。▼実際に別の実験で夢を見ると、関係性が薄い概念を結びつけて新しい発想を生み出す創造性が高くなり、あるテーマの夢を見るとよりそのテーマの創造性が高くなったという▼とはいえ、好きな夢を見る技術が実用化されれば、学生は良い成績を取るために、翌日のテストに関する夢を選択して見ることが出来る。効率を求めて数学を勉強する夢を見るのが当たり前になるかもしれない▼しかし、文藝部でアイデアに悩んでいた時、全く関係のない夢を見てそれを参考に自分の満足する小説を書き上げたことがある。もし決まったテーマの夢しか見ていなかったらあの作品を書くことはできなかったろう。夢はコントロールされたものよりも、普段思いつかないようなテーマの夢を見た方がいい。夢の中なら勉強しなくてもテストで満点だったとれる。夢の中くらい自由に過ごしたい。

「パンフレットから錦城祭を楽しんで」
錦城祭 昨年度より3000部増
夏休みも実行委員会が錦城祭準備を進めてきた。パンフレットチームの相澤慶尚さん(2D)によると、昨年は途中でパンフレットの数が足りなくなってしまうため、今年度は約5000部発行したが、



準備が進むパンフレットを特別に見せていただいた

今年度は8000部発行するぞうだ。今年度は出店するキッチンカーの方にも協力してもらい、出店舗紹介を書いてもらったのだという。
企画検索ページの確認が大変だったと話した相澤さん。確認はメンバー全員でやるようにしていたが、それでも時間が



なまはげ館にて、日本唯一なまはげの面を彫っている方に取材している様子

文藝部交流会開催！

文藝部は8月24日(月)に中央大学付属中学校・高等学校を訪れ、文藝部同士での交流会を行った。お互いの日頃の活動内容について紹介や、オリジナルの文豪双六を行った。文藝部の南紗恵花さん(2A)は「文豪双六で多くの文豪の人生を知ることができ、楽しく学ぶことができました」と振り返る。

「錦城での友だちとお別れしたくない」 留学生2人プログラム終了し、帰国

オーストラリアからの留学生、ユアン・ストックウェルさん(1M)とイタリアからの留学生、マッシモ・コンテさん(1C)が7月18日(土)で錦城での留学プログラムを終了した。一学期間という短い間だったが錦城で過ごした二人に話を聞いた。

ユアンさんは、「オーストラリアの友だちに早く会いたいけど、錦城での友だちとお別れしたくない」と話す。留学する前はシャイだったが、留学して誰とでも話せるようになったと笑顔。先生や錦城生が優しく接してくれてうれしかったそうだ。「日本の高校はちゃんと静かで、みんなルール守るから好き」と言うユアンさん。錦城での生活はとても楽しく、部活では軽音楽部で三年生の先輩とバンドを組み、ギターをひけたことなど思い出を語ってくれた。また、好きなアニメのコンサートに一人で行ったり、ホストファミリーとゴールデンウィークに大阪や京都に行ったりしたそうで「道頓堀やお寺とか行きたかったところにとにかくさんいけて、良かったし楽しかった」と日本を堪能できたそうだ。ユアンさんは、「錦城のことは一生忘れない」と振り返る。留学は他文化に触れて視野が広がるし、何より楽しいからおすすめだと微笑んだ。



醤油ラーメンがお気に入り♡

マッシモさんは、留学当初厳しい校則やイタリアとの違いに戸惑いはしたものの、慣れることができてよかったと話す。幼い頃はよく日本に訪れていたというマッシモさん。「小さい頃はもっと日本語も話せてたんだけど、大きくなって忘ちゃったんだよね。でも、留学して少し日本人になれた気がしてよかった」という。先生や錦城生も皆優しく、留学初日カタカナが書けずに困っていたマッシモさんを、隣の席の人が助けてくれたエピソードを教えてくれた。球大など錦城での生活はマッシモさんにとって一生忘れられない思い出になったと微笑む。「日本はよく『ありがとう』いうし、感謝する文化がとっても良いよね」と語る。日本の食べ物も大好きなのだそうで、特に醤油ラーメンがお気に入りなのだとか。一人で江戸島や川崎、新宿など名所も巡れ大満足だとも話す。また、イタリアが恋しく早く帰りたいとも話す。マッシモさんは、「みんな、色々手伝ってくれてありがとう」と錦城生に感謝を伝えた。

(菊)

